

## 日本における降積雪深の変動の地域性について

## Regional Characteristics of Variation of Snowfall and Snow depth in Japan

# 石井 洋之 [1]; 鈴木 啓助 [1]

# Hiroyuki Ishii[1]; Keisuke Suzuki[1]

[1] 信大・理・物循

[1] Dept. Environ. Sci., Shinshu Univ.

近年の地球温暖化に伴い、日本においても平均気温の上昇が確認されている(気象庁, 2009)。この平均気温の上昇により、日本の降積雪深も変化することが予想されるが、日本は南北に長く延びた国土と起伏に富んだ地形を持つため、地域によって異なることが推定される。そこで、本研究では降積雪深の変動の地域性と他の気象要素の変動との関連性について調べた。

本研究で使用するデータは、1961年～2009年の間に継続的に降雪の観測を行っていた北海道・本州地域の気象官署(89地点)の日単位の平均気温、降水量、降雪深、積雪深の気象データである。これらのデータを基に冬季の平均気温、累積降水量、累積降雪深、最深積雪深を求め、これらの変化傾向とそれぞれの相互関係について調べた。また、本研究では、冬季を初雪日から終雪日と定めた。

累積降雪深は、北緯38°以南の沿岸地域を中心に有意な減少傾向を示していた。また、最深積雪深の有意な減少傾向が見られる地点も累積降雪深と同様の分布を示していた。降積雪深の有意な減少傾向は、太平洋側地域と日本海側地域のいずれにおいても見られるが、これらの地域間の変動傾向には有意な相関は見られなかった。これは、降雪をもたらす要因が異なるためであると考えられる。